

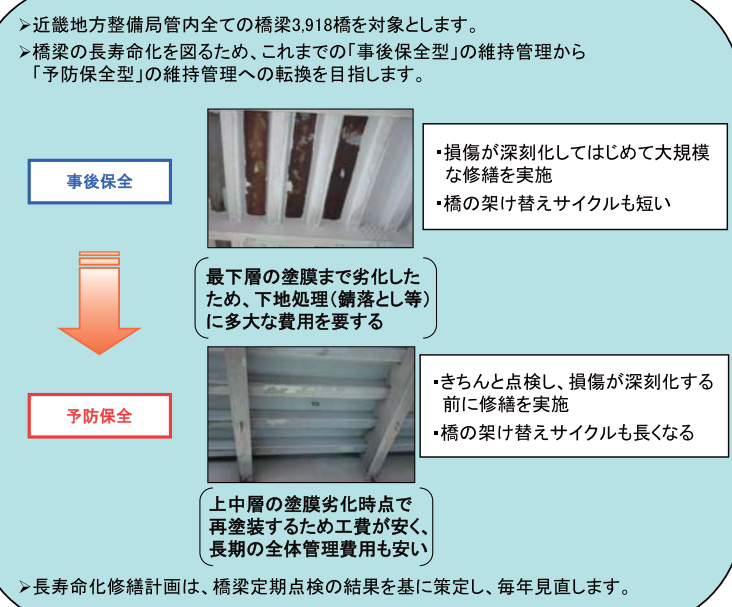
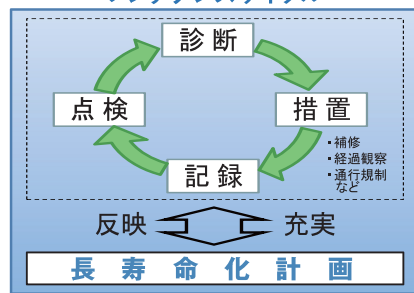
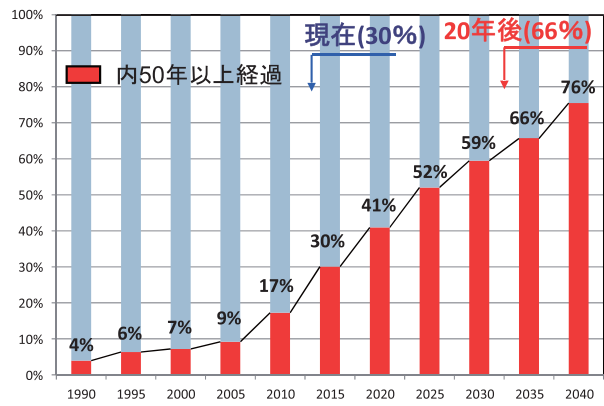
道路

防災・減災対策

道路の老朽化対策

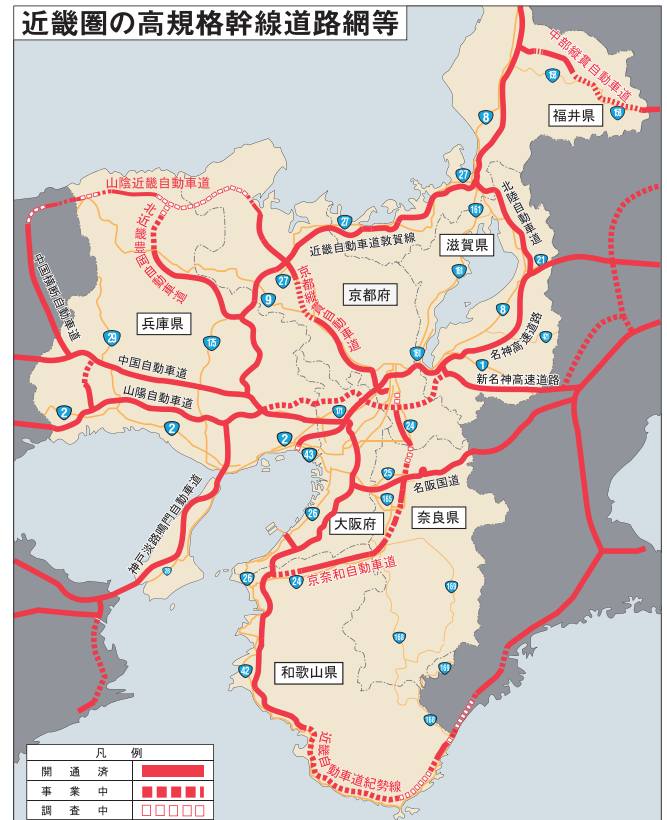
高度成長期以降に整備した道路の急速な老朽化に対応するため、各々の施設の特徴を踏まえた適切な点検による現状確認と、その結果に基づいた的確な修繕の実施が不可欠です。例えば、橋梁においては、建設後50年を超える橋梁数の全管理橋梁数に占める割合が、現在の30%から20年後には約66%に急激に増加します。これら橋梁の長寿命化を図るため、道路点検（橋梁、トンネル等の点検）を実施して健全性を着実に把握し、診断、措置等を戦略的なメンテナンスサイクルで実施していきます。このサイクル結果を記録し長寿命化計画に反映させることで計画的に修繕を実施でき、また、大規模な修繕に至る前に予防的な修繕を行う事で、老朽化対策を推進します。他にも市町村道路等を管理する地方自治体に対して、研修や講習会及び市町村管理橋梁の点検・診断に係る様々な技術支援の取組を実施しています。

架設から50年経過した橋梁割合の推移



広域道路ネットワークの整備推進

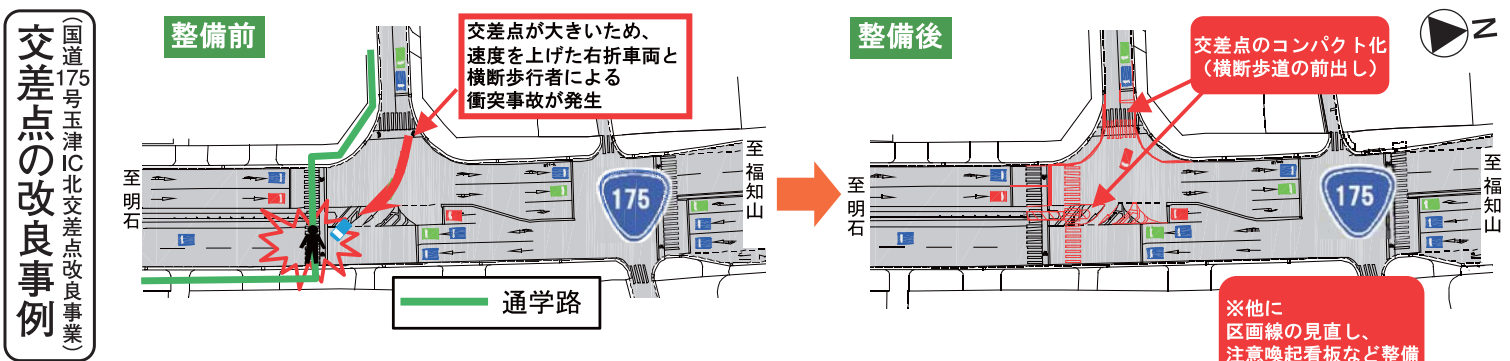
災害に強い広域ネットワークを構築するため、今後想定される地震、津波発生時や豪雨災害によって、現道が寸断することにより広域交通に影響を及ぼすおそれがある区間について、代替性の確保のための主要都市間等を連絡する高規格幹線道路等の整備を推進します。



暮らしの安全・安心の確保

事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)の推進

より効率的・効果的な交通事故対策事業を推進するため、「事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)」の取り組みを進めています。「事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)」は、事故が多発する幹線道路を対象に、過去の事故データや地域の声に基づいた事故の危険性の高い区間を選定し、警察等と連携した重点的な対策を推進します。



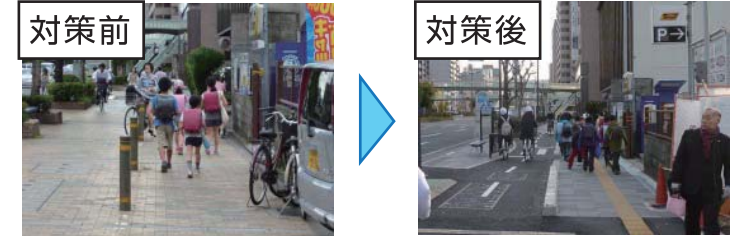
通学路等における安全で安心な歩行空間の創出

文部科学省及び警察庁と連携して実施した通学路における緊急合同点検の結果等を踏まえ、歩道整備や防護柵設置等の対策を行うことにより、安全で安心な歩行空間を確保する取組を推進します。

対策実施例(歩道整備)



対策実施例(歩行者自転車道通行環境の整備)



経済・地域の活性化

近畿圏環状道路の整備推進

直下型地震等における避難、救援、物資輸送ルートの確保や迅速かつ円滑な物流の実現、国際競争力の強化、交通渋滞の緩和等を図るため、環状道路の整備を推進します。



道の駅の新たな展開

「道の駅」は、制度発足から20年、全国の登録数は1059駅(近畿131駅)となり、従来は、道路利用者の休憩、情報提供、地域連携の場として活用してきましたが、現在は農業振興、地域の歴史・伝統文化伝承の場、行政機能等を付加した生活拠点化など様々な取り組みが実施され、地域の課題を解決するための拠点や「道の駅」自体が目的地となっています。今後、更なる発展のため、「道の駅」の機能向上のため、様々な支援を実施していきます。



自治体への支援 橋梁技術研修会の状況



研修会における現場実習状況

